

世田谷区立砧中学校
校長 加藤 敏久 様

世田谷区立砧中学校
学校関係者評価委員会
委員長 矢吹 里香
委員 石井 由里子
委員 宇佐美 武志
委員 中山 庸子
委員 服部 光司

令和6年度 学校関係者評価委員会 報告書

令和6年度の学校関係者評価結果をご報告いたします。学校関係者評価委員会では、「学校関係者評価アンケート(生徒・保護者・地域・教職員)」「自己評価」の集計結果の分析をするとともに、先生方との意見交換、授業・行事参観を行い総合的に検討いたしました。今後の教育活動及び学校運営にご活用いただき、砧中学校がより一層発展することを期待いたします。

1 学習指導について

生徒アンケートでは回収率 86.5%と上昇しており、今年度もどの項目とも肯定が 82.0%~93.2%と高い数値である。この数値から生徒は学習指導については、先生の指導に対して意識高く受け止めている。そこには生徒と先生の信頼関係があり、今後も継続されることを願う。

保護者からのアンケートは、回収率 53.9%で昨年より 15%以上アップしたが、その中で肯定が 52.0%~73.7%、「わからない」という回答が項目により 30%超えもあり今後の課題である。実際に授業参観していないと回答できない項目でもあり、中学生の保護者には時間的に難しいと思う。保護者に対しては、学習指導については違った視点でのアンケートが必要ではないだろうか。ただその中で「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」は、73.7%の肯定的回答があり、保護者も授業参観していなくても理解していると思われる。

2 生徒指導について

各項目とも前年より上がっており、生徒は「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」が肯定的回答 90.2%、「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」は、84.9%、「教員が指導した学校の過ごし方やルールについて子どもが理解している。」は、85.6%という高い数値である。先生の指導が生徒にとってルールを遵守することが当然のように受け止めているのだと感じる。

保護者は「学校の過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導を考えさせる指導をしている。」は 72.5%で前年とほぼ変わらず、「教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」は、前年より 5.5%下がっており、生徒は学校ルールの意識が高いので、先生は保護者への理解を高める必要があると思う。生徒と保護者と教員の意思疎通の方法を検討したほうがよいと思われる。

3 学校行事について

昨年と比較して生徒は、「学校行事は楽しい」は前年とほぼ同じく 93.2%、「学校行事は達成感がある。」は 3.1%上がり 91.1%、「先生は生徒の意欲を大切にしている。」は 7.8 上がり 90.8%であった。どの項目も 90%を超えており、生徒

の学校行事に対する満足度、達成感、意欲を感じることができる。

保護者からも上記 2 項目は 90%近い回答だが、「本校は、子どもの意欲を大切にしている。」が 79.5%と若干下がっており、保護者からみて生活指導と同じく子どもの意欲を大切にしていることが伝わっていないのか、実際少し足りないのか生徒、保護者、先生の 3 者間の距離感をもう少し埋めていく必要があると思う。

生徒たちにとって 10 代前半という人生において最も多感な時季に学校行事から達成感を持つことは人間形成において重要なことである。今後とも生徒を真ん中に学校教職員、保護者と一体となり、学校行事の充実を願う。

4 キャリア教育について

今年度より、生徒への項目が増え、「学ぶことが楽しい」が追加された。肯定が77%、否定が20%、不明が3%。

「私はキャリアパスポートに書いた目標について、考えて行動している。」について生徒は昨年と変わらず60%、否定評価も同様で32%、保護者の「本校は、キャリアパスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。」は+5 ポイントで62%、否定が-8ポイントで11ポイント、不明が+3ポイントで27%。生徒へのキャリアパスポートの定着が伸びていないが、保護者へは、少しずつ周知されつつある。

「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」は20ポイント上がって85%、保護者は7ポイント上がって72%。「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」は生徒で13ポイント上がり78%、保護者はほぼ変わらず67%でどちらの項目も生徒のポイントが大幅に上がり高い評価である。

キャリア教育について、1年生では入学後、一人一人にタブレットが配布され、ICT 支援員から使い方を学び授業で活用、また校外学習で TOKYO GLOBAL GATEWAY(TGG まったく新しいタイプの体験型英語学習施設)へ参加し、日常から離れ、海外をイメージして作られた街並みでいつもと違う環境のなか、グローバルな世界を存分に体験した。冬休み後には職業調べ新聞の作成と発表、2年生では、職場体験の準備として、東京青年会議所の方々による、多種多様な分野の職業の方が来校してくださり、21のブースを10名ほどのグループで回り聴講した職業講話やマナー講座、また都立高校の訪問授業、3年生では修学旅行や高等学校の先生方にお越しいただき、「多様な進路を考えるための進路説明会」が今年度も実施された。また、このようなイベントだけでなく、今年度は国際交流も盛んで、5月にはオレゴン州マウントテイバ一校の生徒の訪問、9 月にはカナダ・ウイニペグ派遣、1 月にはウイニペグからの生徒訪問と国際交流の機会があった。また様々な教科の学習の中でもキャリア教育は取り組まれている。

世田谷区では引き続き「キャリア未来デザイン教育」を推進、これらのキャリア教育の充実が図られることに加え、「ハローキャリアワーク」企業と連携し仕事をテーマにした小・中学生対象の講座から、それぞれの興味のある業種やテーマを選び、それぞれの学びにつなげ、自らのキャリアや未来を思い描く機会となることをめざしている。

またキャリアパスポートは、面談で活用し、年に1回保護者の方にコメントを記入していただいていると聞いているが保護者会などでもさらなる周知をお願いしたい。キャリアパスポートの活用を通して生徒一人一人が自分の将来について教員と話し、保護者の方と共有できる機会を設けるなど引き続き改善を求めたい。また HP の進路情報に『キャリア教育だより』を掲載していただけると在校生の保護者や入学前の小学生の保護者も閲覧でき、さらなる理解につながる。

5 先生(教職員)について

生徒の「先生たちは、生徒にていねいに指導している。」は3ポイント上がり90%、「先生たちは、生徒が相談しやすい。」は7ポイント上がって70%となっている。保護者の「本校は、ていねいに指導している。」は6ポイント下がり75%、「本校は子どもや保護者が相談しやすい。」は1ポイント下がり73%となっている。昨年度同様、職員室前には先生を待つ生徒や相談している生徒をよく見かける。HP『砧中 TOPICS』のは学校生活が垣間見えるが、どの生徒も笑顔で楽しそうにポーズしていることから、撮影している教職員への信頼がうかがえる。引き続き生徒と信頼関係を築いていってほしい。

6 全般について

生徒の「学校生活が楽しい」は2ポイント上がって90%、保護者は4ポイント下がったが80%とどちらも80%を以上で

ある。

「達成感がある。」は生徒が5ポイント上がり79%、保護者は7ポイント下がり70%。

「家庭で宿題や e-ラーニング」は生徒が3ポイント下がり57%、保護者は7ポイント下がり53%、否定的回答は生徒、保護者とも30%後半となっている。生徒の「塾で学習している」が3ポイント減り71%。だが学年で見ると1年生は「家庭」60%、「塾」58%、ともに4ポイント下がっており、2年生は「家庭」は変わらず56%、「塾」は8ポイント下がって69%、3年生は「塾」が変わらず86%に対し、「家庭」は13ポイント下がって55%である。令和3年度から世田谷区が導入した Qubena(キュービナ)という自主学習用ソフトについても継続的な活用に至っていないものと思われる。

「学び舎の連携」については、生徒は変わらず36%、保護者は3ポイント下がり58%となっている。保護者の「教育活動は子どもの成長につながる」は10ポイント下がって77%。しかし「学び舎」と「子どもの成長」の保護者の肯定評価は減ったが否定評価に大きく変わりはなく、不明が増えていることから、情報が保護者に周知されていないことが考えられる。今年度は、区内の幼稚園、小学校、中学校の先生も参加した「性の多様性についての理解を深める研修」や、学び舎の日に砧中の音楽の先生が小学校の授業に参加、今年度の砧中生徒の学び舎あいさつ運動は日程が合わず中止となったが、小学生の砧中訪問、子ども駅伝、小学校や地域のイベントボランティアも行われ、本校の生徒たちが学び舎の小学生をサポートする場面も見られる。小学生の砧中訪問では生徒会が中心となり、校門で係の生徒がプラカードを持ち、小学生をお出迎えし、頑張っていたと聞いている。だが生徒の「学び舎」の否定評価が52%と半分を占めていることから、昨年度挙げた「ボランティアへの関わり方の二極化」の話以前に、ボランティアの情報不足も考えられるので、学校の掲示板や HP などに今年度のボランティア活動の予定を掲載するなど周知することも小中学校と地域の連携や、人との関わりを学ぶことにつながる。参加を強制することなく、生徒みんなが自ら学び舎の児童に関われる環境を学校や地域がさらに作ってあげればと思う。

「体力の向上や健康な生活」については肯定評価が生徒は7ポイント上がって78%、保護者は1ポイント下がって70%、否定評価も、生徒、保護者ともに10%台と昨年より改善されている。今年度は昼休みに校庭で遊ぶ生徒をよく見かけた。学校からは、HP に掲載されている『給食』に、栄養士の先生から献立や産地や今日のひとことが毎日掲載されている。文章には栄養面だけでなく美味しく食べられるような工夫や、生徒や先生と情報を共有し改善するなど、生徒への温かい心がたくさん込められていた。また保健だよりや保健室の掲示物など今後も保健体育の授業や保健委員会の活動を通して、さらに生徒の体力向上に努めていただきたい。

7 部活動について

「部活動は楽しい。」は生徒75.8%、保護者74.2%、「達成感がある。」は生徒76.7%、保護者74.3%は、総じて、高評価である。例年の傾向として生徒は1年生が高いのに対し、2年生が低い。2年生は、3年生から部活動を引き継いだばかりであり、部長やキャプテンとして部をまとめていくプレッシャーや力不足を感じたり、1年生を指導していくという責任を負ったりしており、その困難を乗り越える途中である点が評価に影響しているのではないだろうか。次年度の評価にも注目していきたい。今後は部活動の、地域移行が数年間かけて行われていくと聞いている。砧中学校の部活動にも多くの支援員の方にお手伝いいただいていると聞いている。今後の部活動のあり方も含めて注視していきたい。

8 学校からの情報提供について

保護者からは、学校からの情報提供について、様々な便り80.1%、ホームページ・メール84.1%、と高評価である。本校のホームページを見れば学校の様子がわかるというコンセプトを御理解いただき、必要な時にホームページから情報を得ていただいているものと思われる。今後もホームページの充実を期待したい。一方で、評価が低かったのが「学び舎」の活動に関する情報提供である。保護者は肯定的評価が48.3%、地域は肯定的評価が52.2%であった。学び舎の区立小学校等の情報は砧中のホームページにリンクを貼っている。小学校等との連携活動については今後もホームページを通して、情報提供できるように工夫していただきたい。

9 学校運営について

保護者の「本校は保護者に指導の重点を伝えている。」はポイントが下がり62.7%、「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる。」はポイントが下がり61%、「本校は学校運営について地域に情報を提供している。」はポイントが下がり55.8%である。

地域の「学校行事の内容が充実している。」は91.3%である。地域の方々は、ホームページから学校の情報を得ていることが高評価につながっていると考えられる。

砧中学校は、「伸ばすべき生徒は伸ばし、支えるべき生徒は支える」を基本理念として、生徒の育てたい力を、自主・自律、協働・共生、創造・挑戦として教育活動に取り組み、「地域運営学校」として地域・保護者の皆様からいただいたご意見を教育活動に生かしていると聞いている。教職員誰もが教育方針を理解し、教育活動を行っていけるよう期待したい。引き続き「地域運営学校」としての責任を果たしていただきたい。

10 家庭との連携について

「私は、学校公開にすすんで参加している。」は、保護者全体の肯定が48.6%、否定が48.9%となっており、昨年とほぼ変わらない。この内、2学年と3学年は半数以上が否定となっており、特に評価が低い。保護者が子どもたちの学校生活の様子を知ることは、日頃の子どもの様子把握するということだけでなく、本人に合った進学先を考える上で重要な意味を持つ。学校公開の意義を保護者が十分に理解するよう、日頃から保護者に対して参加を積極的に呼びかけ、授業内容も工夫する等して保護者の関心を高める努力が求められる。

「学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している。」は肯定51.4%、否定46.3%で、昨年とほぼ変わらないが、3学年は肯定が6割を超えている。

3学年は最高学年であり、1・2学年の保護者に学校生活のアドバイスをしたり、地域と学校をつなぐパイプ役を担ったり、期待される役割が大きいことが影響していると思われる。他方で、行事によっては卒業生や地域の協力が得られにくく、在校生の保護者の協力を頼らざるを得ないものもあるところ、特に英検プロジェクトでは、協力者(ボランティア)不足により実施自体危ぶまれている状態が続いている。英検取得は、高校受験や大学受験において重要な考慮要素となるところ、生徒たちが学校で気軽に受験できる仕組みを維持することは子どもたちにとって重要な意味を持つ。かかる意義・必要性について、今一度保護者に説明し、協力を仰ぐことが求められる。

「今年度の学校の指導の重点を理解している。」は肯定41.6%、否定34.1%で昨年よりも若干否定的評価が増えている。保護者が学校の指導の重点を理解する必要がなぜあるかということ、子どもの成長を支えていくために、学校と家庭との連携が必要だからである。学校の指導の重点に関する保護者の関心は、かかる目的意識がなければ高まらない。今一度、学校が家庭とどのように連携をし、子どもたちに関わっていかうとしているのか、学校のスタンスを再考し、それを保護者に示したうえで共通認識とするよう努めていただきたい。

11 地域との連携について

保護者の地域連携に関する3項目の肯定的評価は約60%、否定的評価は約10%、不明が約30%で、前年度同様、低い評価となっている。

「地域の人や施設を教育活動に生かしている」については、一昨年度は肯定的評価が100%だったにもかかわらず、昨年度は53%と大幅に低下し、今年度は63%と増加している。増加傾向にはあるものの、今後も引き続き、地域と学校の交流を積極的に進めていく必要がある。

学校協議会や合同学校協議会の役割についても一昨年度は91%と高評価だったのに対し、昨年度は38.5%と大幅に低下、今年度は69.5%に増加している。不明が38%から17.4%に減じていることからすると、学校協議会の役割が以前よりは地域の方に見えやすくなったものと思われる。学校協議会は、地域の方々に直接学校のことを報告し、地域の方の声を教育に生かす重要な機会である。子どもたちは、地域で見守られることによって、安心して学校生活を送り、成長することができる。そのことを忘れずに、今後も活発な活動を期待したい。

「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」は昨年度53%の評価だったのが60.9%に増加した。学校運営委員会の活動報告については、引き続きより積極的に書面等でPRし続けていただきたい。

12 学校の安全性について

学校の安全性に関するアンケート結果は、保護者については昨年とほぼ同様で、3項目とも73%~79%となっており、安全指導や、災害対策については保護者の評価は相当程度得られているものと言える。

地域については、「学校は安心・安全な学校づくりを進めている」は、肯定的な評価が86.9%、否定が13%となっており、前年度とほとんど変わらず高評価と言える。他方で「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」については、肯定的評価が前年度とさほど変わらない69.6%となっている。砧中学校では、避難所運営委員会が定期的に開催され、学校との連携もなされており、学校内の取り組みは十分評価できるが、11同様、学校と地域の連携・協力があるからこそ、学校の安心・安全が守られるので、引き続き地域との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努めていただきたい。

【総評】

本アンケートの配布時期は11月下旬、回収時期は12月中旬である。アンケートの回収率は、生徒86.5%(前年比+8.5%)、保護者53.9%(前年比+15.9%)、地域53.4%(前年比+31.4%)となった。

すべての対象者において回収率が大きく増加したのは、昨年の懸案事項であったWEB方式への対策をはじめ、学校側が熱意を持って回収方法を模索し実行した結果であり、大きな成果といえるだろう。

アンケートの結果分析は、肯定的評価(「とても思う」「思う」の合計)、否定的評価(「あまり思わない」「思わない」の合計)、不明(「分からない」)のそれぞれの数値を、昨年度と比較することにより分析する。学校行事やホームページでの働きなどは、生徒・保護者・地域ともにおおむね肯定的評価であった。学び舎や宿題・eラーニングなどについては、否定的評価が見られたが、いずれもその機会や意欲についてのものであるため、改善の余地が大いにあると捉えたい。

【まとめ】

本アンケートは普段耳にすることのできない生徒・保護者・地域の声を取り上げ、学校の教育活動や学校運営などの改善、充実を図り、より質の高い学校教育の実現のために活用される大変重要なものだ。今年度のアンケートは例年に比べ、高い関心と回答率が得られた。教育目標である「グローバル社会における人間性の育成」をテーマに1年生は英語移動教室、2年生はキャリア教育や校外学習での平和教育、3年生は租税、金融経済教育など、様々な分野で更なる学びを深めている。今回得た生の意見を活かしながら、今後も生徒、保護者、学校、地域の人材が一体となり「寛容な心と想像力、未来のグローバル人材を育てる砧中学校」の発展を目指していきたい。